

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
EU41C204		授業開発力の育成と新教科領域の開拓 (Fostering Lesson Development Skill & Cultivating New Comprehensive Subject field )				高度専門科目										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1	教育学研究科	後期		氏名 教科教育・教科専門の教員 (担当教員の詳細は「履修の手引き」で確認すること) E-mail kumamaru@oita-u.ac.jp (熊丸:教職大学院教務部会) 内線 7550 (熊丸:教職大学院教										
授業の概要	授業のテーマ:学校教育における「授業」の重要性を理解し、使命感とビジョンをもって学び続けることができる。個々の教科内容に対する深い理解を基盤として、教科横断・融合型の授業案を構想し、授業実践計画として具体化する方法を学ぶことを目的とする。教科横断・融合型の授業に関する研究や実践事例に関する文献を精読し、新たな授業を開発していく上での課題を分析する。その上で、提案する授業のテーマ(ねらい)を設定し、そのねらいを達成するために最適な教科の組み合わせや指導計画を具体的に構想し、その教育効果や課題について考察する。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	教科指導に関わる高度な専門的知識を利活用し、理論と実践の往還を具体として実践できる															
目標2	専門的知識を基盤とした省察を行い、成果と課題を踏まえた展望を創造することできる															
目標3	学修を通して育んだ高度な専門性を、チーム全体の活性化のために生かすことできる															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	現代の教育課題と教科教育学の使命について															
2	現代の教科教育における「問題の所在」の検討															
3	現代の教科教育における「問題の所在」の再考															
4	「教科内容に関する先行研究」の探索と活用															
5	「教育方法に関する先行研究」の探索と活用															
6	「教材開発に関する先行研究」の探索と活用															
7	学術研究における「省察」の在り方について															
8	学術研究における「知見」の教育実践への還元について															
9	地域の教育課題に即した「授業モデル」の構想															
10	地域の教育課題に即した「授業モデル」の再考															
11	地域の教育課題に即した「授業モデル」の発表															
12	研究成果の発表計画の検討															
13	研究成果の発表内容の再考															
14	研究成果報告会															
15	研究活動の「振り返り」と今後の教育実践への応用															
ラ ブ ニ テ ン シ ブ	A:知識の定着・確認	グループディスカッション, プレゼンテーション, フィールドワーク				工 夫 そ の 他 の										
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	資料の精読(10h), 発表資料の作成(15h)														
	事後学修	レポート作成(15h)														
教科書	授業中に指示する。															
参考書	各学校種の「学習指導要領」及び各教科等の「解説」の他、学修者の興味関心に応じて担当教員より具体的な指示がある。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	各回的小レポート	30%														
	グループディスカッション	15%														
	研究成果報告会におけるパフォーマンス(発表や質疑応答)	20%														
	最終レポート	35%														
注意事項																
備考																
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	学校教員経験を有する教員を含む
実務経験を いかした教 育内容	地域の教育課題，現代の教育課題に対応した授業実践や生徒指導の経験を活用し，各院生の研究に対する指導を行う。